

## おひさま通信

## \* 白岡市障害者 デイサービスセンター \*

そこで、職員は「仕事に拘らなくともいいんじゃないいか」「仕事への参加を条件とするのではなく何がある大目にされるとほつとすると、白岡デイに来るとほつとする」というような感覚を大切にしよう」と思いました。そして、「ありのままのBさんを受け入れよう」という方針を立てます。すると、見方は180度変わり、作業は何となく一人で行なう姿を大切にするようになります。また、外出などの集団企画がある時、Bさんは決まって「参加しない」と言いましたが、職員は「無理しないでいいよ」「行きたいと思った時に一緒に行こう」と伝えられるようになりました。職員の心にもゆとりが出来たのだと思います。



タ一（以下白岡ディ）は日中一時支援事業を行なっています。仲間たちの年齢は20～80代と幅広く、障害も知的・身体・精神・重複・難病・高次脳など様々、通所回数も週1～5回と様々です。日課はAMは入浴・仕事、PMは入浴・仕事・リハビリ・余暇であり、仲間それぞれが行ないたい活動に参加します。

タ一（以下白岡ディ）は日中一時支援事業を行なっています。仲間たちの年齢は20～80代と幅広く、障害も知的・身体・精神・重複・難病・高次脳など様々、通所回数も週1～5回と様々です。日課はAMは入浴・仕事、PMは入浴・仕事・リハビリ・余暇であり、仲間それぞれが行ないたい活動に参加します。

**仕事のありようを変える**

仕事はシャーペンの組み立て作業を行なっています。作業は全ての工程が入れる・付けるといったワンタッチ動作で成り立つ為、テーブルを囲んでみんなと一緒に行なっていても個別作業になってしまい会話はほとんどなく、みんなが一人黙々と行なっていました。また、「出来る・出来ない」という見方によつて、仲間だけでは

仕事はシャーペンの組み

を行なっています。作業は全ての工程が入れる・付けるといったワンタッチ動作で成り立つ為、テーブルを囲んでみんなと一緒に一緒に行なっていても個別作業になってしまい会話はほとんどなく、みんなが一人黙々と行なっていました。また、「出来る・出来ない」という見方によつて、仲間だけでは

求が聞かれます。職員はそれが嬉しくて一生懸命洗います。シャワーが熱い時など「あちつ」と言つて笑い合います。また、作業では一つの工程を自ら進んで行なつてくれる姿をして何より笑顔が多く見られています。

他にも「仕事はしない」と言つて日課には全く参加しませんが、野菜に詳しいCさんや麻雀が大好きなDさんなどがいます。職員はCさんの活動を「近くの道の駅への散歩」と捉えて一緒に行きます。旬の野菜を見たり買つたりするとCさんの話は止まらなくなります。その話を聞きたがらの帰り道を職員は楽しんでいます。Dさんは受傷後ずっと在宅で過ごしていました。職員はDさんの活動を「麻雀」

る日、Bさんは足を洗う時は職員が洗いやすいように自ら持ち上げてくれるのでですが、その持ち上げ方が高くなっている事に気づきます。そこから職員は「入浴介助を通じて安心感や関係性を育んでいけるかも知れない」と入浴を単なる生活動作として捉えるのではなく活動として捉えていこう」と思いました。以降、人一倍丁寧な介助や「気持ちがいいね」といった声掛けや共感を大切にしています。

現在、Bさんからは「ここが痒いからもうちょっと洗って」といった要

施設特性

る動作ではなく安心感や関係性の「みに繋げる」と捉えています。様々な要求を持つて通所する仲間達、この仲間達一人ひとりの要求に応えいく中でこのような捉え方に至っています。また、この捉え方によつて必然的に緩い目的設置の活動や自由度の高い空間になつています。この雰囲気が仲間達の集団を成り立たせています。どのような要求や事情を持つていても集団の中で大事にされ安心感や関係性を育み、それを土としながら次に来るどのような目標を持つ仲間であつても受け入れてくれる大切な資源だと捉えています。これらは白岡ハイならではの特性であり、地域に発揮していきたいと思っています。

職員はこれからもこの施設特性を捉えています。

る環境を大切にします。麻雀だけにする2時間弱の滞在ですがよほど嬉しいのでしょうか、「他の仲間達もやすいから電動の麻雀台を買いたい」という要求が聞かれています。

川口太陽の家  
3月3日(日)

白岡太陽の家にじ  
2月にきょうされん北東ブロック仲間交流会実行委員会がありました。にじの仲間自治会からは3人が実行委員として参加しました。年に一度北東交流会でボウリング大会をすることに決定しました。年に一度北東ブロックの仲間たちにあえることを楽しみにしています。

日向の『』

コロナウイルスが心配ですが、免疫力をあげて頑張ります。

免疫力をあげて頑張れ

れしかつたです。

Bさんは35歳の男性、脳内

目的は入浴であり、あの時間は業を何となく行なつていきました。また、人間関係でたくさん傷つた経験もあり、人との関わりも望んでいませんでした。職員は「人と関係の中でその傷を癒してほしい」と思い作業の中で役割を作つたり理事委員会に推薦したりしましたが、いつも「そういうのはいいよ」とうばかり。「誰も関わらないでほしい」といつた思いを感じざるをえませんでした。この時の職員は仕事にこが

棟と、ゆつたりと音楽を聴いて過ごした新棟に分かれて、それぞれ気持ちを盛り上げてコンサートに臨みました。

四三

譽  
志